

(調査様式1)

1. 自己評価及び外部評価結果

作成日 令和元年 12月 10日

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	467010908
法人名	公益財団法人慈愛会
事業所名	グループホーム愛と結の街 (カトレア・スイトピー)
所在地	鹿児島市小原町9-28 (電話) 099-267-0533
自己評価作成日	2019/12/10

※事業所の基本情報は、WAMNETのホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.wam.go.jp/
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人NPOさつま
所在地	鹿児島市新屋敷町16番A棟3F302号
訪問調査日	令和2年1月15日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

- ①地域との交流～女性学級、地域サロン参加、消防訓練 町内会加入 実習生受け入れ ボランティアの受け入れなど積極的に行っている
- ②活力ある環境づくり～ウッドデッキや畑を活用して季節の花や野菜を植えている
- ③生活機能向上連携加算、栄養スクリーニング加算など算定し、利用者の状況に応じて、老健のPT OT ST 歯科衛生士など必要時の他、定期的に助言してもらい健康の維持に努めている

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

鹿児島市の住宅街に建てられている事業所で、同じ敷地内には医療機関や老人保健施設、訪問看護ステーションなどの関連施設もいくつかあり、近隣にはスーパーをはじめ商店や企業、保育園等が密集している地域に位置している。協力医療機関との連携も十分に図られ、定期的に訪問診療を受けることができ利用者や家族の大きな安心につながっている。

理念を基に、より良いケアの実現や職場環境の改善、職員のスキルアップなど、多くの具体的な年度目標を設定し、半期や年度末には職員との個別面談も実施して目標の達成度を評価して、より良い仕組みづくりに取り組んでいる。

ホームと地域合同の夏祭りや法人と地域で開催する秋祭りのほか、町内会に加入して地域のサロンや女性学級等への参加、地域住民の認知症等の相談への対応、災害時を想定した協力体制の構築など地域との交流は非常に深いものがある。

利用者の思いや意見、家族の希望や意向を職員は共有して、ケアに具体的に反映できるように取り組むと共に、改善結果等は運営推進会議及びホームから家族宛への毎月の写真を添付したお便りできめ細かく連絡している。

管理者は職員に対して日常的に話しやすい雰囲気作りに努め、日頃から職員とのコミュニケーションを大切にしている。計画的に研修の充実を図り、職員アンケートや目標管理を活用して個別面談をするなど、職員と連携しながら業務改善を進め、より良い職場環境や就業環境づくり、職員育成に努めている。

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価		
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅰ．理念に基づく運営						
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員はその理念を共有して実践につなげている	グループホームの理念は、見える所に貼り出し毎朝の朝礼にて唱和を行い、理念の意識づけを図っている。理念の理解を深め実現していくための努力を日々行っている。	法人とホームの理念のほか、詳細な年間目標を設定し、安全や健康管理に十分留意して、利用者が個々のペースで暮らせるように日々のケアに取り組んでいる。玄関や事務所への掲示や朝礼での唱和、目標達成度確認も含めた個人面談等により理念の意義の理解を深めている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会への加入をして、女性学級にも参加している。また消防訓練の時は地域の方々に参加をしていただいております。グループホームの行事食（ちまき）のおすそ分けなどにて地域の交流ができています。	町内会に加入してサロンや女性学級などに参加し、ホームの消防訓練には地域の方々にも参加してもらっている。中学生のサマーボランティアや看護学生等の実習生受入れのほか、地域住民の認知症の相談への対応も行っている。ホームと地域合同の夏祭りや法人と地域合同の秋祭り開催など地域住民との交流も活発である。		
3		○事業所の力を生かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて生かしている	地域の行事に積極的に参加し、また施設内の行事に参加して頂き、交流を通して認知症の方への理解を深める機会を作っている。			
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2カ月に1回運営推進会議を開催しており、家族や地域の方々との話し合いの場を設けている。その際に出た意見を全職員と共有し、サービス向上に努めている。	会議は家族や地域住民、地域包括支援センターの職員等が参加して定期的に行われている。ホームや利用者の現状やヒヤリハットをはじめとした報告等のほか、意見交換や地域の情報交換が行われ、得られた助言や提案を職員で共有して、地域とのイベントや日々のサービス向上、業務の改善等に役立っている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連携を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市町村担当者が訪問された際は事業所の様子など伝えている。また協力関係が築けるように情報を発信している。運営推進会議を活用し地域包括支援センターの職員との連携が図られている。	地域包括支援センターの職員との協力体制の構築や介護相談員の受入は行っている。市担当者とは入退所や認定更新の手続き等の際に、ホームや利用者の現況なども伝え助言や対応を得てサービスに活かしている。説明会や研修会等にも出席して意見や情報の交換も行っている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束マネージャーを中心に身体拘束について定期的に勉強会があり、具体的な行為を正しく理解できるよう学んでおり、全職員が身体拘束を行わないケアに取り組んでいる。グループホーム内での勉強会も実施している。	言葉による行動制限を始めとする身体拘束や高齢者虐待に関するホームでの勉強会や全体研修で職員の理解を深めケアへの反映を図っている。職員は利用者個々の状況を十分把握するように努め、具体的な事例にも基づいて適切な対応を日々のケアやカンファレンスで繰り返し確認している。居室や玄関等の施錠は原則として行わず、利用者が外出しそうな場合は、職員が連携して見守りや声かけを行っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	内部、外部研修に参加し、全職員が虐待について学ぶ機会を持つように努めている。また、メンタルヘルス検診や有給休暇など職員のメンタルヘルスケアを行い、虐待防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	愛と結の街グループ内の全体研修の企画があり、研修などで学んだ事を、共有できるよう伝達の間を設けたり、全員が資料に目を通すようにすることで、活用できるようにしている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者と家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約前には、ご家族、又はご利用者を含めて施設内や雰囲気を見学して頂き、契約時・解約・改定時には十分な説明を行い利用者や家族の不安や思いを受け止めながら、理解・納得が得られるように努めている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	年2回家族会を行い意見交換をすることで、利用者の思いや家族の思い、意向を聞き運営へ反映。家族同士の情報交換の場も設けている。意見箱の設置や日ごろのコミュニケーションにて意見交換できるようにしている。	利用者には日々の暮らしを通じて頻繁に声掛けして思いや意見を聞きだす努力をしている。家族とは電話や来所時、運営推進会議、家族会の際に、話しやすい雰囲気作りに努めて多くの意見を得ている。家族アンケートも実施しており、全職員が共有を図りサービスに具体的に反映できるように努めている。家族には毎月の写真入りのホームダよりで必要な報告をしている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月職員の話し合いの場を設けそこで出た意見や提案を運営に反映させている。また、個別面談で出た意見や要望を聞き、働きやすい環境作りにも努めている。	日常のケアや朝礼・勉強会時の対話、グループメールによる毎月の職員会議やユニット会議の他に、定期個別面談を実施して意見や提案の把握に努めている。日常のケアを通じて必要時には個別に対話も行い、また、研修等を通じて職員の育成も図り、利用者へのサービス向上や働きやすい職場環境づくりに努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	定期的もしくは、必要に応じて面談を行い、考課表やチャレンジプランシート等を用いて個々が掲げる目標の達成状況を把握し、意欲・向上心を持って働ける職場作りに努めている。また個々の健康管理やワークライフバランスを保つ為に有給、夏冬休やリフレッシュ休暇が取りやすい職場環境作りに努めている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	個々の能力・勤務年数に応じた研修に参加出来る様に勤務の調整を行いスキルアップを目指している。また、研修で学んだ事を職員全員が把握出来る様に勉強会等を開催し情報の共有を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡協議会に参加しており、同業者と交流する機会を作っている。また谷山地区のグループホームとの情報交換を定期的に行うことでサービスの質の向上を図っている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	家族や、今まで利用していた事業所職員、介護支援専門員から得た情報を元にケアプランを立て、介護者が変わっても利用者が安心・安全に暮らせる様に、ご家族の協力を得ながら本人の安心を確保している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	利用開始前に家族とのカンファレンスを行い家族の意向・要望・不安を聞き、ご利用者を第一に考えた職員と家族の情報・意見交換を行い信頼関係作りに努めている。定期的に親睦会も行っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービス利用開始時は、情報収集で得た事をもとに暫定プランを作成し、入居時にカンファレンスを開催しケアプランの内容の説明と同意を得ている。初期の見直しは3週間後、次は3ヶ月後、そして6ヶ月毎だが、状況の変化があればその時点で臨機応変に対応し本人にとって必要なサービス内容の見直し追加を行い支援している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	グループホームの理念に沿って、本人、家族、地域と共に過ごし支え合う関係を築いている。例えば、町内会の行事や消防訓練への参加、毎日の家事（洗濯物干し・洗濯物たたみ・お盆拭き等）を行い、本人の得意分野を活かし誰かの役にたてる喜びを感じ自信に繋げる関わりを築いている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を介護される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月、担当スタッフより、本人の近況報告や行事の案内、家族への協力依頼等を記載したメッセージカードを送付させて頂いている。また、面会時にもご家族との情報交換を行い、本人と家族の絆がこれまで以上の関係が築ける様に努めている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	これまで使用していた馴染みの家具や食器を使用する事で、安心出来る空間が作り出せている。また、ご家族や大切な人との時間を大切にさせて頂きたく、面会・外出・外泊が安心して行える様に双方の不安軽減に努め支援している。	電話や手紙の取り次ぎをはじめ、家族はもとより利用者の友人・知人の訪問が多く、ゆったりと過ごせるように配慮している。利用者が希望するネット利用の買い物のほか、ユニット間や関連施設との交流を支援している。また、家族の協力を得ながら、帰宅・墓参り・美容院・外食等も可能な限り支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係を把握し、相性も見ながら日常の活動に取り組んだり、職員も交えて会話を楽しんだり利用者との個性を活かした活動を取り入れ、生きがいや思いやりを持ちながらお互いを支え合えるよう支援する事ができている。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用〈契約〉が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用契約が終了しても、入院されている場合はご家族へ了承を得て面会へ行かせてもらい、ご家族から要望がある際にはその都度相談や支援を行いながら関係性が維持できるように努める事ができている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者と日々関わりの中で、会話や表情から気持ちを汲み取り、本人の想いや意向に沿った支援を行っている。また、希望や意向の把握が難しい方に対してはご家族からの情報や思いを聞きながら支援するよう取り組んでいる。	利用開始時の本人や家族からの聞き取り、日常の言葉や表情・所作、介護相談員の情報等から思いや意向の把握に努めている。関係者で本人の視点に立って意見を出し合い、加えて家族の意見も収集して具体的な対応を検討して本人の希望に添うように努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時の情報や、本人との関わり・ご家族から情報を提供していただくことで、生活歴や馴染みの暮らし方を把握し、これまでと変わりなく安心した日々を過ごして頂けるよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の記録や担当の職員発信にて気を付けて欲しい事等を毎月ケースカンファレンスでも話し合うので情報を共有し、利用者一人一人の現状を把握することができている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	担当スタッフにて3ヶ月毎にモニタリングを実施し、本人・家族・必要な関係者と情報や意見の交換を行っている。また、毎月のケースカンファレンスで話し合ったそれぞれの意向等も取り入れながら現状に沿った介護計画を作成することができている。	利用者や家族の思いや意見を聞き、また、主治医や看護師の意見も加えて担当者会議で話し合い、職員の意見やアイディア・気づきも反映したきめ細かなわかりやすい介護計画を作成している。日々の様子や変化などは業務日誌や経過記録に具体的に記述し、定期的なモニタリングやカンファレンスで話し合い、計画の見直しや修正を適宜行っている。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子や変化・気づきを個別記録に残すことで情報を共有でき、ケアの工夫に活かす事ができている。また、ケアの実践と結果を職員間で話し合い評価することで介護計画の見直しにも活かすことができている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族より要望があった際には、その時の状況で出来る限りの支援やサービスができるよう柔軟に対応し満足して頂けるように取り組むことができている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らし方を文えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源を把握し、個々の能力に合った支援を活用する事で心身の力を発揮し地域の方とも楽しく過ごすことができている。（女性学級・おばらパークへの参加やボランティア・慰問の受け入れ等）		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所時に本人または家族に訪問診療可能な医師を主治医に選択してもらっている。急変時や必要時には主治医へ状態報告や相談をすることで適切な医療を受けられるように支援することができる。往診も定期的にあり看護師・介護職員との連携が図れている。	利用前の受診経過は把握され、利用者や家族の希望する医療機関をかかりつけ医とし、定期的に往診を受けられることが安心につながっている。利用者の状況に応じて対応可能なように、訪問看護ステーションとホームの看護師で連携して健康管理に努め、家族や医師との情報交換も適切に行っている。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々の関わりの中で表情や言動から異常やいつもと違う様子がみられた際には看護師へ連絡・報告し適切な受診や看護を受けることができる。看護師が不在の際は系列の訪問看護へ連絡し対応してもらう等の連携が図れている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	体調不良にて入院が必要になった際には、安心して治療に臨めるよう定期的にサマリーの見直しを行い、入院時病院関係者へ提供している。また、できるだけ早期に退院できるように病院関係者と情報交換やそうだんを行い連絡を取り合っている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合や終末期のあり方については、カンファレンス時など早い段階から、グループホームで、できる事、できない事を十分に説明を行い、本人や家族が望む支援ができるように、情報共有し、チームで支援に取り組んでいる。	重度化や看取りに対する対応指針を定め、利用開始時に家族に説明し同意をもらっている。また、その後も本人や家族の思いの変化やホームの状況の変化などの際には、かかりつけ医や看護師など関係者とも話し合い、対応の共有を図っている。看取り希望の際は、「ホームでできること、できないこと」を説明して、意思確認を行いながら支援に努めている。関連医療機関と24時間体制で連携がとれ安心感につながっている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、すべての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救急法の研修を毎年実施している。職員は全員参加し、AEDの取り扱いも習得できるように取り組んでいる。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回消火・通報・避難訓練を行っている。避難経路・避難場所の確認を行うとともに、地域の方々にも参加してもらっており、地域との協力体制を築いている。	年2回消防署や地域住民の協力を得ながら、夜間想定も含む避難・消火・通報訓練を行っている。また、自主訓練も実施しており、隣接する関連施設と協力体制もできている。スプリンクラーや自動通報装置を始めとする消火設備は整備され、食料・水等の備蓄も十分である。まだ具体化できていないが、従来より地域全体での避難訓練も検討している。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	接遇や個人情報保護の研修内容を基に個人情報の取り扱いについてはグループ内で対応の統一をしている。利用者の人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応を常に心掛けている。	利用者の人格を尊重し、日常のケアに際して尊厳やプライドを損ねるような言葉かけや対応を行わないように、全体研修や勉強会等を通じて方法を共有して支援に取り組んでいる。日頃より言葉遣いを含めて利用者とのコミュニケーションを大切にし、個人記録や居室の保護にも十分な配慮がなされている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日頃より利用者とコミュニケーションを図り、本人が思いや希望を表出でき、自己決定できるような言葉かけなど行い支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者のその日の体調に合わせてながら、一人ひとりのペースを大切にし、希望に沿った支援を行い、楽しく安全で過ごせるように支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している	朝の更衣や外出時には、利用者が服を選択できるように声掛けし、その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	本人や家族などから好きな食べ物など聞き取り、味付けや見た目などにも気を配っている。利用者のできる範囲で職員と一緒に食事の準備や片づけを手伝ってもらっている。	旬の食材を活用しながら利用者の好みも献立や味付けに反映させ、ミキサー食や介護食等の工夫を行っている。野菜の下ごしらえや食卓の後片づけ等利用者のできることも一緒に行っている。季節の行事食や敬老会・クリスマス会・誕生会等の特別食や外食、手作りおやつなども計画して利用者の楽しみにつなげている。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人一人の食事状況、食事・水分摂取量を毎食把握し家族とも協力しながら必要な栄養・水分摂取ができるよう支援している。食事時の環境や食器、食事形態にも配慮している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の臭いや汚れが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後に口腔ケアの声掛け・介助を行う。その人の能力に合わせた道具を使用し口腔内の清潔に努めている。口腔内に異常がある場合や診察希望がある場合は歯科医と連携し対応している。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	できるだけトイレでの排泄ができるよう支援を行っている。本人の身体状況に合わせた排泄環境を考え、失禁がないように本人に合った排泄用品を使用している。皮膚トラブルがないかも注意して介助している。	利用者の見守りや適宜の排泄チェック表活用で利用者個々のリズムを把握して、誘導や声掛けを工夫しながら可能な限りトイレで排泄できるように支援している。個々に合わせた排泄用品等の使い分けや皮膚トラブルへの配慮などもプランに組み込み、支援の際には羞恥心や不安の軽減に努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便に効果的な体操や水分摂取を促す等日頃から便秘予防に努めている。排便状況把握し内服薬の調整を行い、排便を促している。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援している	ゆっくりと入浴を楽しめるよう本人のタイミングや希望に合わせている。体調不良や外出で入浴できない日が続かないよう調整している。必要な時は家族の協力もいただき入浴を実施している。	入浴日や時間帯の取り決めはあるが、家族からの情報や本人の希望や体調によってタイミングよく、そしてゆっくりとした気分で楽しめるように支援している。リンスやシャンプー等の好みにも対応し、入浴をためらう場合は、職員の交替や繰り返しの声かけなどの工夫をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	各自の睡眠状況に応じて、日中も休息できるように配慮している。特に夜間は個人の生活習慣に合わせ、寝るまでは好みに過ごしていただいている。不眠が続く時は主治医に相談し対応している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	各利用者のお薬説明書をファイルしており看護・介護全スタッフで情報共有し服薬と症状の変化の確認に努めている。内服薬は時間毎に準備し必ず服薬後に内服チェック表で確認し配薬ミスのないように努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者の生活歴から出来る事、得意な事、役割を見つけ習字や塗り絵、歌・踊り、皿洗い・掃除・洗濯物干し等本人の体調や気分に合わせ一緒に行っている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるように支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ご利用者の体調をみながら、散歩などは希望に沿えるようにしている。毎月外出レクリエーションやイベントを計画し、家族にも一緒に過ごせるよう時間や機会を作っている。地域交流として、女性学級や小原町の地域行事にも参加されて地域の方と過ごす時間を作っている。	家族からの情報収集とともに、個々の利用者の好みや習慣は日常会話からもくみ取り、日常的には散歩や外気浴、隣接の関連施設との交流を楽しんでもらっている。毎月1回は外出レクリエーションやイベントが計画され、家族にも協力してもらいながら季節の花見や地域の行事、外食などで外部の人々とも交流している。家族の援助のもとでの食事や外泊、美容院、墓参りなども勤めている。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	平成26年以降、基本的に金銭は預からないことになっている。どうしても所持したい場合は本人・家族に紛失リスクの了承を得たうえで自己管理して頂いている。必要がある時はご家族へ相談、協力依頼している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	家族からの電話は、取り次いでおり、また、ご利用者本人が希望される時は自由に電話を掛けることができるように支援している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱を招くような刺激（音、光、色、広さ、湿度など）がないように配慮し、生活感や季節感を取り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感を味わって頂くように、毎月ホールの壁面を利用してその季節を表現したり、季節ごとの畑の花を生けるようしている。カーテンはレースも備え付け、遮光し、心地よく過ごして頂けるように配慮している。	中庭に直接出ることができるリビングは広く明るく、室温や湿度、換気にも十分配慮されている。壁には、利用者と職員が共同で作成した、季節感ある絵や貼り絵、習字それに行事の写真などが飾られ、畳の間やソファも配置されて静かにゆったりと過ごせるように工夫されている。2階にはウッドデッキやベランダもあり、外気浴やお茶飲みなどできるように整備され、気持ちよくくつろげるようになっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールにはソファや畳部屋もあり、寝転んだり、座ってくつろいで頂けるスペースも設けている。また、ホール壁面の中央にテレビを設置しており、希望により視聴できるようになっている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	これまでの慣れた生活を営むことができるように、愛着のある物や家族写真を飾ったりして馴染みある空間作りに努めている。	家族の協力も得て一人一人の希望や状況に応じてテレビや椅子などの家具、加湿器、写真やぬいぐるみ、身の回りの小物など馴染みのものが持ち込まれ居心地のよい場所になっている。なお、ホームからはエアコン・ベッド・タンスが設置されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	個々の出来る事を把握し、見守りながら残存能力を生かし維持できるように、廊下やトイレには手すりをつけたり、トイレの場所の案内図を貼り自立できるように努めている。。		

V アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1 ほぼ全ての利用者の
			2 利用者の2/3くらいの
			3 利用者の1/3くらいの
			4 ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1 毎日ある
			2 数日に1回程度ある
			3 たまにある
			4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。 (参考項目：36, 37)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
		○	3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない

61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1 ほぼ全ての家族と
			2 家族の2/3くらいと
			3 家族の1/3くらいと
			4 ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)		1 ほぼ毎日のように
			2 数日に1回程度ある
		○	3 たまに
			4 ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1 大いに増えている
			2 少しずつ増えている
			3 あまり増えていない
			4 全くいない

66	職員は，生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)		1 ほぼ全ての職員が
		○	2 職員の2/3くらいが
			3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
67	職員から見て，利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
68	職員から見て，利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1 ほぼ全ての家族等が
			2 家族等の2/3くらいが
			3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない